

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人 協会  
全国修学旅行研究会 寛田区  
発行人 前田 代田  
〒101 東京都千代田区  
神田錦町1-17-1 (NK第一ビル)  
電話 03 (5259) 0631  
振替 00160-7-36337

## 学校週5日制の完全実施

### 生きる力の育成と総合学習の新設を

中教審が審議のまとめ

第十五期中央教育審議会は、平成七年四月、文部大臣から二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方についての諮問を受け、検討を行ってきたが、このほど「審議のまとめ」を公表した。

第一部の今後における教育の在り方では、子供たちの生活の現状について述べられている。

第二部のこれからの学校教育の在り方では「生きる力」の育成を基本とし、教育課程の改訂に当たっては、横断的・総合的な指導を一層推進するため、各教科の教育内容を厳選する。

とにより時間を生み出し、一定のまとまった時間(総合的な学習の時間)を設けるとしている。

第三部の完全学校週5日制の実施については、子供たちに「ゆとり」を確保し、「生きる力」を培うことについて今後の教育の在り方を軌を一にするものであり、教育改革の一環として完全実施を目指すとしている。

## 来年4月から

### 消費税が5%に

消費税の税率が、来年四月から5%に改定される。平成元年四月に3%で発足以来、八年ぶりの改定であるが、J・R等の公共料金に波及するおそれがある。

消費税率の改定は、多くの商品の価格にも影響が及ぶことになり、修学旅行費等の変動に留意する必要がある。

## 会長に青木 一氏

関東・東海・近畿三地区 公立中学校修学旅行連合委員会 総会を岐阜で開催

関東・東海・近畿三地区 公立中学校修学旅行連合委員会



青木新会長

員会(木下梢三会長・大阪狭山市立狭山中学校校長は、平成八年総会を七月三日岐阜市で開催し、本年度事業計画の決定、役員選出等を行った。

木下会長、(財)全国修学旅行研究会鈴木力理事長のあいさつの後、全修協前田寛理事長代行・専務理事が、当委員会の沿革を説明し、議事に入った。

平成七年度各地区修学旅行委員会及び当委員会の会務報告、全国中学校修学旅行実態調査の結果報告に続いて役員選出が行われ、青木一(名古屋市長立南中学校校長)以下別掲の新役員を決定、平成八年度事業計画等を審議した。

本年度の主な事業として、各地区的な修学旅行計画の決定事項は次のとおり。

①各地区修学旅行輸送計画の無事故完遂と楽しく思い出し修学旅行の実施

②平成十年年度輸送計画作成

③第11回全修協修学旅行セミナーへの協賛

④第13回全国修学旅行研究大会への全面協力

⑤実施状況の調査実施

⑥国庫補助金増額の陳情

馬・伊香保(千葉) 永野宏(千葉) 南総 村井稔彦(千葉) 八幡東

▲東海▽日井美恵子(岐阜) 果校長会 武藤毅(岐阜) 陽南 野村定男(三重) 修学旅行研究会 田中彌(三重) 西橋(四)

▲近畿▽高橋茂(滋賀) 北大路 平岡豊(京都) 高田 細田経世(大阪) 英田 柴田隆生(兵庫) 多田 片石 敬邦(奈良) 桜井東 千原 康博(和歌山) 妙寺

特別委員 木下梢三(大阪) 狭山 横嶋孝夫(栃木) 教育委員会

顧問 鈴木力(全修協) 参与 前田寛(同) 鴻田好通(同)

委員 大友泰(同) 大阪 北條直樹(同) 水野清孝(同) 名古屋 伊東繁(同) 本部

事務局長 井桁孝(同) 若松原 堀込紀夫(群)

## 主張

### 教職員研修旅行におもむ

大阪事務局長 大友 恭 恭

年々旅行に出かける人が増えている。長引く不況といわれるなか、ゴールデンウィークには毎年記録更新がされている。週休二日制の定着、円高傾向等が要因と考えられる。一九九〇年二年のテニシリオン計画も海外旅行増に拍車をかけた。

全修協では、教職員という職能集団を対象に四十年にわたって教職員研修旅行を企画実施してきた。

教職員研修旅行は修学旅行の改善向上事業の一環として、修学旅行指導者育成を目的に旅行形態による研修という画期的事業として始められた。教職員自身が集団の一員として行動するなかで集団指導の効果的方法を会得、未知の土地で自然、歴史、風土、風俗に

触れて得た知識を授業のなかに生かすことや教育経験を交流することによる研修の好機会を提供するものである。

一九七七(昭三二)年の第一回北海道研修旅行は、五人近い参加者を十本の臨時列車に編成した九泊十日の大旅行であった。今日では考えられない、座席と座席に板を渡し「ゴザ」毛布を敷いて身を横たえ、屋敷は弁当、お茶は添乗員が乳缶や大ヤカンで駅ごとに買い入れて車中で注いで回ることになった様子であった。北海道の各都市では市長自ら駅頭に出迎え歓迎式を挙行、先々の手厚い歓迎と懇切な見学案内があり、参加者は長旅の疲れも忘れ感動した。当時の参加者は今日なお懐かしい思い出として語り伝えている。

以来四十年にわたって全修協では研修旅行を続け、目的地、実施時期を拡大、退職教職員の増加に合わせてグリーンツアーの実施、海外旅行も実施してきた。また、地元の良い講師を依頼して研修行事の充実を努め、教育関係者の旅行として特色あるものにしてきた。

研修旅行に参加した人々からは「教職員関係者といことで心が知れ話がはずむ。安心して一人でも参加でき、講師による研修が楽しめである」などの声が聞かれる。

しかし、旅行も時代の進展と共に変化。参加者のニーズも変化する。近年の大きな変化は、参加者に女性の比率が高くなってきていること、退職教職員が約半数を占めるようになったことである。反面、学校現場の多忙から現職教職員の参加が減少してきている。

旅は未知への遭遇であり、新しい発見を求めるものであるといわれる。また、感動と思いを生かすものであるといわれる。

教職員研修旅行は修学旅行指導者の育成を重視して始められたが、時代の変化、教職員の要望に応じ文化厚生、生涯学習の場の提供等を重視している。

現在、研修旅行の基本として、

- (1) 研修性の重視(テーマによるコース分類と研修行事の講師陣充実)
- (2) 適度な福祉性との調和
- (3) 見学地の精選
- (4) 旅行期間の短縮
- (5) 会費の低廉化

を目標に改善を努め、四十年の伝統をもとにその発展を目指している。

参加者が基本である。参加者増のためには内容の充実が必要で、会費の可能な限りの低廉化や地元発着、また増加する退職教職員の要望の実現、とりわけ関係教育団体の企画参加への積極的なかわりが重要である。基本に立ち返って考える必要がある。

## 風紋

某中学校が京都への修学旅行で座禅体験を行ったところ、生徒たちが私語を交わし、姿勢を崩して、指導の僧に警鐘で背中をたたかれ、怒鳴られた。これに対して校長が「中学生には厳しすぎる」と寺に向かい抗議、父母も抗議の電話をした。新聞は、学校と寺のやり取りを以上のように報じたが、問題はこれや取り取り以前にもありそうだが、一般的に体験学習は、体験を希望する側と、それを受け入れ体験を与えようとする側の十分な意思の疎通が不可欠だ。両者の意思がかみ合わないままでは、学習効果は期待できないし、時には悲、喜劇も起る。体験を希望する側の意思とは、生徒の興味・関心を軸に教育指導をする教師の意図の統合であろう。一方、受け入れ側の意思とはどのようなものであろうか。伝統的、専門的な分野の世界や技を他の世界や世代に伝えたり紹介したりすることに積極的意義を感じ、熱意を持っていて、余り意味はないと感じながらも頼まれたからやってみよう程度の場合、営業の一環としての積極的受け入れの場合等様々ある。第十五期中教審は「生きる力」を育成するために、地域における様々な体験の活性化を提言しているが、体験学習の基本は、体験を与える側からの意思の一方通行ではなく、体験する側との意思の相互作用が基本であろう。禅僧にやり込められた生徒たちが、いつの日か再び寺門を訪れることを願う。(編)

はるかな「尾瀬」の木道で自然観察 (昨年夏の教職員研修旅行 4面に関連記事)

夢と感動の修学旅行

人が好き。地球が好き。旅がスキ。

近畿日本ツーリスト

運輸大臣登録旅行業第20号 (社) 日本旅行業協会会員

楽しい旅に、大きな安心。

TOKIO MARINE

「学校旅行総合保険」をおすすめします。

東京海上火災保険株式会社

本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211(代表)

# 教育の窓

## 今日の教育課題と特別活動の役割

一、今日の教育課題と特別活動の役割  
 先般、第十五期中央教育審議会が「子供に「生きる力」と「ゆとり」を——このサブタイトルを付した審議のまとめを公表した。平成七年四月、文部大臣から「二十一世紀を展望した我が国の教育の在り方について」諮問を受けたその検討結果である。

その第一部では、子供たちの生活や彼らを取り巻く環境を踏まえて、今後における教育の在り方について、第二部では、学校、家庭、地域社会の教育の役割と連携の在り方について、第三部では、国際化、情報化、科学技術の発展等の社会

会の変化に対応する教育の在り方について述べている。二十一世紀に生きて活躍する今日の子供たちが、心身ともに健やかに成長し、豊かに自己実現を図っていきけるよう、教育関係者は、それぞれの立場からその教育機能を果たし、積極的に取り組んでいかなければならない。

学校教育における特別活動は、生徒一人一人の日常生活や諸活動を対象とした教育活動であり、為すこと

## 「生きる力」と特別活動

文部省初等中等教育局

主任視学官 渡部 邦雄

はじめ、規範意識の低下、自立の遅れ、健康・体力の問題などについても触れられている。完全学校週五日制を視野に入れた学校のシミュレーションが叫ばれている今日、主体的に生きる人間性豊かな人物の育成のための必要條件は何かを、再確認しておくこと

彼らがテレビなどのマスメディアに多くの時間を費やし、疑似体験、間接体験は多いが、生活体験、自然体験、社会体験などの実体験は著しく減少しているとの実態を憂慮している。

この視点の欠落が、学校活動を通じた好ましい人間関係の醸成、集団の一員としての生き方の体得、自主性、自発性の育成など、今日的な教育課題の解決に当たり、重要な役割を果たしているのである。

「生きる力」は、「主体的に生きる力」である。この「生きる力」は、「自己としての生き方」についての課題を見つめ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する能力であり、また「自らを律し、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」とくまなく生きるための健康や体力であることとされている。

この「生きる力」は、全人的な力であり、他者と協働しながら、自立的に社会生活を送っていく、人間としての実践力なのである。柔らかな感性やボラ

ンティアなどの社会奉仕の精神も含まれる。このように考えると、特別活動の目標にある「望ましい集団活動」心身の調和のとれた発達と個性の伸長「集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自己」ということが、

この「生きる力」は、「自己としての生き方」についての課題を見つめ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する能力であり、また「自らを律し、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性」とくまなく生きるための健康や体力であることとされている。

この「生きる力」は、全人的な力であり、他者と協働しながら、自立的に社会生活を送っていく、人間としての実践力なのである。柔らかな感性やボラ

## 会長に藤井政勝氏

### 近畿地区公立中学校修学旅行委員会

近畿地区公立中学校修学旅行委員会が、平成八年度総会を六月十一日十四時から京都市で開催した。

まず木下修三会長、(財全修協)前理事長代行・専務理事のあいさつがあり、出席者二十三名の自己紹介の後、議事に入った。

議事では、全修協大友恭大阪事務局長から近畿地区公立中学校修学旅行委員会

の沿革について説明の後、木下会長を議長に報告事項と協議事項の順に進められた。

報告事項では、大阪で行われ大盛況であった第十二回全国修学旅行研究大会の成果、大系線及び国道不通による計画輸送の対応、ス

一、研究活動の推進  
 ・第十回近畿地区中学校修学旅行研究大会(十一月二十二日・奈良)の開催  
 ・第九回現地研修

八月十九日(二十一日、富山・奥美濃方面)  
 二、計画輸送の充実  
 三、活動基盤の強化  
 四、調査活動の実施

今年度の委員は次のとおり(各中学校長、敬称略)。  
 会長 藤井政勝(奈良・生駒南)  
 副会長 柴田隆生(兵庫・多田) 高橋茂(滋賀・北大路) 東野雅巳(大阪・藤原)  
 会計 平岡豊(京都・高田) 運営委員長 木下修三(大阪・狭山)  
 運営委員 小林十寸夫(京都・長岡) 井上昭男(兵庫・塩瀬) 新谷紀久男(滋賀・彦根) 片石敬邦(奈良・桜井東) 千原泰博(和歌山・妙寺)  
 委員 大友恭(大阪府・八ツ本) 中野延通(大阪府・高槻九) 上野英彦(奈良・河内長野) 北野勝二(八

## 委員長に青木氏を再選

### 東海三県中学校修学旅行委員会

東海三県中学校修学旅行委員会(青木 一委員長・富士中学校長)は、平成八年度総会を六月十四日名古屋屋市教育館で開催、各県の委員・全修協本部の鴻田好通事務局長・J.R東海営業部担当者が出席した。

平成七年度事業報告・決算報告を承認し、平成八年度委員長に青木一校長始め役員を選出した後、平成八

年度事業計画と予算案を原案どおり可決した。  
 特に今年度の全国研究大会の協力を再確認し、続いて岐阜羽島乗降が以前のようにスムーズに行きようとRに要請した。  
 平成十年度輸送計画については、ほぼ昨年並みに進めることに同意、会議を終了した。  
 本年度の委員は次のとおり

・委員 青木 一(名古屋・富士)  
 ・副委員長 田中 彌(津・西橋内)  
 ・(運営委員) 後藤文宏(穂積・穂積)  
 ・委員 八愛知(黒川・修) 中野延通(中野延通) 加藤明(同・同) 加藤明(同・同) 安藤龍藏(小牧・篠岡) 桑原繁隆(宮・奥) 岩月健(岡崎・城北) 川口乙八(豊橋・吉田方)  
 ・(岐阜県) 武藤毅(岐阜・陽南) 白井美恵子(校長会事務局)  
 ・(三重県) 小谷明毅(四日市・羽津) 野村定男(修学旅行研究会事務局)  
 ・(事務局) 水野清孝(全修協) 矢澤孝太郎(同)

出に入り、藤井政勝会長は(八月十九日)二十一日、富山・奥美濃方面) 二、計画輸送の充実 三、活動基盤の強化 四、調査活動の実施

国立公園六甲山の山頂近くにあるグランドホテル  
 六甲スカイヴィラはゆたかな四季の彩りを誇るさわやかなリゾートホテルです。  
 周囲は数多くのレジャー施設があり、四季を通じて楽しんでいただけます。  
 鉄筋4階建/収容人数 200名  
 〒657-01 神戸市灘区六甲山町西谷山1878-86  
 グランドホテル 六甲スカイヴィラ  
 TEL.(078)891-0140

座禅体験で  
 “心、リフレッシュ!!”  
 清潔、安全、快適、  
 安心のお宿

本館	17室	194帖	120人
比叡	28室	260帖	200人
北嶺	15室	160帖	130人
計	60室	614帖	450人

〈国際観光旅館〉  
**延暦寺会館**  
 比叡山  
 TEL 0775-78-0047・0554  
 FAX 0775-79-5053

首都東京を見て、何かを!  
 東京ドームもすぐ近く  
 お泊りは 都心の  
 経験豊かな  
**本郷の旅館へ**  
 本郷旅館協同組合  
 〒113 東京都文京区本郷4-36-3 TEL 03-3813-9381

東京コマ旅行会館は  
 第8回優秀防火建築表彰で  
 建設大臣賞を受賞いたしました。  
 東京でのお泊りは  
 安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様により有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉  
 東京都港区六本木1丁目7番地  
 TEL (03) 3585-1046(代表)

東京 コマ旅行会館